

## 研究発表もうしこみフォーム

氏名：上村明

氏名のローマ字表記：KAMIMURA Akira

所属：東京外国語大学

専門分野：文化人類学

発表のタイトル：新型コロナウイルス感染症のモンゴル国の移動牧畜への影響を考える

発表要旨（600字～800字程度）：

モンゴル国では、2020年3月初め国内最初の感染者が確認されたものの、厳しいロックアウト政策のためか感染者数は抑えられていた。しかし、2021年にオミクロン株が入ってくると、感染者数は爆発的に増加した。

世界的な新型コロナウイルス感染拡大は、モンゴル国の移動牧畜にどのような影響を及ぼしたのであろうか。これを明らかにするため、発表者は、2021年秋に予備調査を行い、2022年夏バヤンウルギー県ボルガン郡、トゥブ県バヤンウンジュール郡等の牧畜世帯約80世帯を訪れ質問票による聞き取り調査を行った。

質問票は、世帯主の情報や世帯構成、家畜頭数、過去3年間の移動といった世帯の基本情報等のほか、新型コロナウイルスのパンデミック状況が、人流、動物の流れ（牧畜移動）、物流（食料・日用品購買と畜産物販売）、情報の流れという4つの流れにどう影響したかに関する質問から構成されている。

調査によると、人流について初期のころは皆恐れて隣家にも入らず自分の家にも入れなかった、また人の集まる結婚式などを延期していたが、現在は平常に戻っているという回答が多かった。商品の購買については、2021年の感染爆発の際には、ソムセンターが閉鎖され設けられた検問所から商店に電話で注文し商品を持ってきてもらうなど一時的に大きな影響があった。また同じ時期、商品価格が高騰したことも家計に影響を与えた。しかし、春にカシミアを売った代金でほぼ1年間の小麦粉や必需品をまとめ買いする世帯には影響はなかった。畜産物の販売に関しては、自分で市場に畜産物を売りに行くことができずやってきたブローカーに安値で売ったという回答、あるいはブローカーが来ないため売ることができなかったという地域もあった。

現在は通常にもどりコロナは牧畜の形態を根本から変えることはなかったが、世界規模では健康や経済に大きな悪影響が残るという回答が大多数を占めた。